

大阪錦重日之新聞紙

第百八十八号

神田豊島町二百木村亀吉といふ愚もの  
 此より辻君をひやくお毎夜く佐久間河岸  
 へ出りて兎角辻君の邪心をもつら露の  
 流しの泥水へ造るる亀の困るるを銭を  
 まじり連て去るる手の内を持てくるる病  
 むら終ふ辻君も強うあり明治八年四月  
 七日の晩相つらば 来るありソレ  
 来るそのま置 とも辻君が  
 空をさく袋た  
 さにされと上鍋炭  
 を顔へぬるといやまや  
 外聞のわうの事でありとて  
 讀賣七十八号ふ一笑せり

文華堂記



小島政三郎  
 錦重

錦重  
 島士長

市九一